

# 会館だより

2013年 8月号 第290号



公益財団法人 日中友好会館

## 「会館だより」8月号の内容

### 行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・「日中友好会館所蔵中国絵画展」  
神奈川県藤沢市巡回展

《日中友好後楽会》

- ・ 談話会・交流夕食会
- ・ 後楽会中国旅行

### 活動記録

- ・「小説(ものがたり)・戯曲(しばい)を描く  
—中国木版年画展」が閉幕
- ・ 新入寮生懇親会
- ・ 千曲市日中友好協会が後楽寮を見学
- ・ 6月談話会
- ・ 瓊花茶会
- ・ 横浜へのバス旅行の感想

### コラム

- ・ 理事長のツイッター

### 会館行事と人の動き

#### 表紙

『風蘭』 王玉珏 作 中国画 1989年  
(8/10～8/25 開催  
「日中友好会館所蔵中国絵画展  
(藤沢市巡回展)」より)

※催事の詳細は、本誌2ページの  
「行事案内」をご覧ください。

## 行事案内

### 日中友好会館美術館

#### ◆「日中友好会館所蔵中国絵画展」神奈川県藤沢市巡回展

会期：2013年8月10日(土)～8月25日(日)

開幕式：8月10日(土) 11時～

時間：10時～19時

入場料：無料 休館日：月曜日

場所：藤沢市民ギャラリー

(JR藤沢駅隣接のルミネプラザ6階)

主催：日中友好会館所蔵中国絵画展実行委員会

協力：(公財)日中友好会館

後援：藤沢市、(公財)藤沢市みらい創造財団、  
(公社)藤沢市観光協会 他



鄧子愷「鷄語天明近」

日中友好会館美術館で本年4月～5月に開催いたしました「日中友好会館所蔵中国絵画名品展」に展示した所蔵品から、選りすぐりの約20点が藤沢市で展示されます。

齊白石、程十髮、鄧子愷など、今では中国でも見ることが少ない貴重な絵画を、この機会にどうぞご覧ください。

【お問合せ】藤沢市民ギャラリー  
電話：0466-26-5133



程十髮「千峯競秀」

### 日中友好後楽会

#### ◆談話会・交流夕食会

8月は夏休みのため、談話会はお休みといたします。9月の談話会は来月号にてご案内いたします。暑くて大変な時期ですので、皆様体調にお気をつけてお過ごしください。

#### ◆後楽会中国旅行

中国旅行の申込みは、いよいよ8月30日で締切となります。ご参加を検討されている方はお早目にお申込みください。また、どんな事でも構いませんので、ご興味のある方は事務局へおたずねください。(事務局担当：小林)

日程：11月18日(月)～11月25日(月) 7泊8日

行先：「茶馬古道と少数民族の古鎮を訪ねる旅」雲南省 麗江・大理・昆明

参加費用：会員 ¥208,000/1名 (2人一部屋利用の場合、国際線燃油チャージ代別)

【申込み・問合せ】後楽会事務局 小林、緒方、大竹 電話：03-3811-5305 FAX：03-3811-5263

## 活動記録

### ◆「小説(ものがたり)・戯曲(しばい)を描く—中国木版年画展」が閉幕

日中友好会館美術館にて開催していた主催催事「小説(ものがたり)・戯曲(しばい)を描く—中国木版年画展」が、6月23日(日)に最終日を迎えました。

中国で正月(春節)を迎える際に飾る「年画」の中でも、本展のように小説や戯曲を題材したものにスポットを当てた展覧会はめずらしく、意義のあるものになったのではないかと自負しております。

「三国志演義」や「水滸伝」以外にも日本ではあまり知られていない題材もありましたが、会場内ではじっくりと解説を読みながら作品をご覧になっている方々の姿を見かけました。アンケートにも「絵の背景にあるストーリーにも興味がわいた」「優品が数多く見やすく展示され、解説によって理解が得られた」などのご意見を頂きました。

また、会期中に本展の監修者である三山陵先生(大東文化大学大学院講師)によるギャラリートークも開催され、多くの方に足を運んでいただきました。



ギャラリートークの様子

解説ご執筆にご協力頂きました諸先生方、貴重な資料の借用をご許可していただきました早稲田大学図書館と早稲田大学演劇博物館を始め、本展開催にご尽力を頂きまし

た関係者の皆様はこの場をお借りしてお礼申し上げます。

文化事業部ではこれからも中国各地の素晴らしい文化芸術の紹介を通して、日中両国の交流に尽力していきたいと思ひます。  
(文化事業部)

### ◆新入寮生懇親会



宮本副会長の挨拶

6月20日、大ホールにおいて新入寮生懇親会を行いました。これは毎年6月と12月に行っている後寮寮の行事であり、今回は昨年12月から今年の5月までに入寮した寮生が対象です。当日は授業や研究などで来られない寮生もいましたが、27名が参加し、会館役職員との交流をしました。

まず会館出席者を紹介した後、宮本副会長より中国語で歓迎の挨拶があり、続いて寮生委員会の呂天 雯副委員長から寮の紹介や寮生委員会についての話がありました。その後、一人一人が日本語や英語で自己紹介をしました。

次に会場を中国茶芸苑「馥」に移し、懇親会を行いました。寮生は毎日勉強や研究に忙しく在寮期間もまちなため、会館役職員や寮生同士の交流が多くありませんが、この懇親会で交流も進み、出身地や趣味が同じであるなど、新たな発見や共通認識もできたようです。また、時間になってもなかなか話は尽きないようでした。

今回の新入寮生懇親会は今年6月から11月に入寮した寮生を対象に、12月に行う予定です。  
(留学生事業部)

## ◆千曲市日中友好協会が後楽寮を見学

6月13日、山口昌昭理事長をはじめとする千曲市日中友好協会13名が後楽寮を見学しました。

毎年夏には長野県日中友好協会主催のホームステイで後楽寮生を多数受け入れていただいております。千曲市でも寮生がお世話になっています。今回のメンバーには昨年ホストファミリーの方やホームステイ歓迎会でお会いした方も来ており、久しぶりの再会にとっても喜んでいました。

まず美術館で開催されていた会館主催展である「中国木版年画展」を見学し、文化事業部職員の説明に耳を傾けながら年画を鑑賞したり、年画の様子を映したビデオなどを観たりしました。

続いて留学生事業部職員の案内で後楽寮内の居室やシャワー室、図書室などを見学しました。会員の皆さんは実際に留学生がどのような暮らしをしているかとも関心があるようでした。閲覧室ではちょうど中国古箏を練習している寮生がいたので、1曲演奏してもらいました。皆さんは古箏について寮生に尋ねたり指先につける道具に触れたり興味津々でした。



交流をしながらの昼食

そして後楽寮食堂で寮生達と昼食を共にし、昼食後も寮生達と生活や日頃の出来事などを話しながら交流しました。後日届いたお礼状には、「それぞれ分かれての少人数による寮生との交流は自然体に話ができ、

もっと時間がほしいと思うほど楽しいひと時となり、生涯忘れられない体験になった」と記されていました。

全員の方が初めての見学であり、後楽寮の事をより一層理解していただき、親しみを持っていただけたと思います。今後とも千曲市日中友好協会にはホームステイの受け入れにご協力いただき、数多くの寮生と交流を深めていただきたいと願うばかりです。  
(留学生事業部)

## ◆6月談話会

6月12日、山東省出身で敦煌研究院保護研究所の陳港泉さんを講師に迎え、敦煌の莫高窟の現状と保護についてお話頂きました。陳港泉さんは現在、東京芸術大学美術学部で修復を学んでいます。



講師の陳港泉さん(右)と通訳の王梅さん

講義では、沢山の写真を用いて、莫高窟内の色鮮やかな壁画や仏像といった仏教美術の数々をご紹介頂いたあと、陳さんの専攻である壁画の保護についてお話頂きました。

観光客の増加やさまざまな環境変化がもたらす弊害から、敦煌研究所がいかにも保護や管理を行っているか、最先端の技術協力など日中の共同研究もあわせて紹介し、参加者は莫高窟の魅力だけでなく、文化保護を礎とした両国間の深い絆を感じることができました。

(後楽会事務局)

## ◆瓊花茶会



着物を着て記念撮影

2013年6月9日、中国大使館、日中友好会館、日中友好協会、日中協会のご後援のもとで、日中友好会館後楽寮と東京国際交流館との主催の「鑑真和尚御遠忌一二五〇年 瓊花茶会」が国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、中国大使館孫美橋参事官一行8人、日中友好会館武田理事長が出席してくださいました。後楽寮生と国際交流館の留学生は今回の茶道活動に参加し、日本茶道文化を体験しました。

瓊花茶会は「日本文化への理解を深め、中日の民間友好交流を強めること」を目的としたものです。茶道は日本伝統文化の代表的な存在です。静かで雅な空間で、美しい茶菓子を食べ、時節にあう掛軸や生花を觀賞し、落ち着いて自分自身を見直し、茶道の「一期一会」の精神を味わうことができます。

茶道には作法のあることもわかりました。お客様は次々と茶室に入り、茶席に着いた後は茶菓子を出されます。今回の茶会は鑑真和尚の故郷江蘇省揚州市の名花である瓊花によって考案され、丸い緑色の菓子の上に白い瓊花が四つ咲いている模様でした。席主は末席に座り、正客とやり取りをしながら、茶会を盛り上げます。お手前はお茶を点てたら、最初に正客に渡します。お茶の渡し方も作法があります。お運びの方はお客様の前で正座し、茶碗を左手に乗せ、

右手で軽く二回回し、尊敬の意として茶碗の美しい模様をお客様に向けて渡します。お客様は茶碗を受け取った後、左手に乗せ、右手で軽く二回回し、柄模様を主人のほうに向け、三回にわたって最後の一回に音を出して完全に飲みほす。飲んだ後は感想を言います。

日本の茶道にはいろいろ流派があり、それぞれの流派には各自の「家元」がいます。今回、私たちが体験したのは樋口宗真氏のいる「裏千家」です。中国人留学生に日本の茶道を充分に楽しませるために、茶会顧問の高橋さんは着物屋さん和着付けの先生に連絡をして、初めて茶道を体験するみんなにとってもいい思い出を残すように企画してくれました。今回の茶会は五席に分けられました。日中友好会館武田理事長は一席目に出席して、「日本人だけど、何も知らなくて」とおっしやって、茶道先生の説明どおり最後は音を出して完食しました。後楽寮寮生委員会委員長の陳略峰さんも「今回の活動は中日交流を強め、日中友好を促すことを目的とし、留学生事業部の陳先生のおかげで無事に開催しました。寮生の皆さんにとって、茶道体験は大切な体験であり、今回の茶道体験は美しい思い出になれるように」と挨拶しました。

後楽寮は今回の活動のために、後楽寮食堂のcockさんたちによる手作りの中国式弁当を用意して、日本人の着付けの先生や茶道先生たちに中国の弁当を楽しんでもらい、交流を深めました。

今回の茶道体験を通じて、後楽寮寮生は日本文化の理解を一層深め、中国文化と日本文化の交流の淵源もまた新たな認識をたどりました。体験する寮生は「初めて体験するけど、とても深い印象を残した」「日本の茶道から、日本人の真面目な生活態度を感じた」「今回の活動はとても意義がある。これからもこういう体験活動に参加したい」と言っていました。

(後楽寮寮生委員会)

## ◆横浜へのバス旅行の感想

2013年6月21日、中国留学生友の会のご招待で横浜へのバス旅行に参加させていただき、幸いに存じます。来日してから3ヶ月の間で、東京を離れるのは初めてのことです。

当日は参加者全員が東京駅に集合し、バスで味の素株式会社の川崎工場へ出発しました。途中で友の会の担当者の方が一日のスケジュールを紹介して下さったのに加えて、熱心に東京タワーなどの有名な観光スポットを解説して下さいました。「味の素」の川崎工場では、おもしろい見学が行われました。工場の方の紹介を聞いた上で、生産品を試食させていただくと共に、生産現場と工場の展示館も参観させていただきました。高度自動化された生産ラインと極めて効率化された管理方式は想像より一層高い水準に達し、さすが現代的な工場だと感じました。日本へ留学する目的としては、まさにこのような先進的技術と学問を身に付けることではないかと考えると、一生懸命に勉強するほかないでしょう。その他にも、記念としてのお土産もいただき、ありがとうございました。



味の素工場にて

その後、横浜の中華街へ行きました。ここでは、中国風の店と商品がたくさんありますので、親しい感覚が生まれました。昼ご飯の中華料理は食べ放題でしたので、みんな

なお腹がいっぱいになりました。午後になると、横浜ランドマークタワーへ見物に行きました。タワーに登るため、日本最高速のエレベーター（750m/分）を利用しました。とても速いので、びっくりしました。これも先端技術の一例に当たることでしょう。69階の展望台から都市の眺めを鳥瞰するのは、本当に素晴らしいことだと思いました。自然の素晴らしさと人間の知恵が共に現れていました。雨が降っていたので、動物園への観光する予定を変更しなければなりませんでしたが、海岸へ行くチャンスが出てきました。従来、日中両国は海でしっかりと繋がっていますので、海を見ると、故郷にとっての懐かしさと日本に留学する憧れが全部ところに浮き上がります。

一日の旅行は少し疲れましたが、綺麗な風景を心ゆくまで見ることができたほか、新しい友人と知り合いになることもでき、本当に楽しかったと思います。このようにリラックスした後は、学業においてもより一層頑張りたいと思います。

(後楽寮生 曾文科)



## 理事長のツイッター

(公財)日中友好会館 理事長 武田 勝年

6月22日(土)、横浜桜木町の「はまぎんホール」で関口知宏氏の講演を聞いた。イケメンの俳優が、中国で鉄道3万2千キロの旅をしたからと言って、そんな簡単にあの複雑な中国社会の実情が分かってたまるか！でも鉄道旅のテレビドキュメンタリーは大きな反響を呼んだと聞いているから、若しかしたら面白いかも！と中途半端な気持ちで席に就いた。

ところが講演の途中から、「心構えが本格的だね」「おぬしなかなかやるね」「物事の本質に迫る力があるな」と大いに感心して傾聴していた。失礼しました。

中国人は感情が複雑だから七情あり、喜・怒・哀(悲しみ)・惧(恐れ)・愛(好き)・悪(憎しみ)・欲と言うが、一般的には「喜・怒・哀・楽」が、感情を表す表現として日中両国で使われている。彼は、中国、韓国、インド、日本、四か国の民衆の根底にある自然な気持ちが、喜=中国、怒=韓国、哀=インド、楽=日本で表されるのではないかと言う。話は、彼が中国の山村を訪れた時の「くらくらする歓迎」の説明から始まった。村人が疲れた自分を連れて村はずれの高い崖まで案内し、「この絶景を見ろ、俺達の喜びだ。君も喜びを感じて欲しい。」と笑顔が語っている。客人と喜びを分かち合う歓迎スタイルだ。日本では先ず室内に案内し、「お疲れでしょう。お茶でも飲んで一休みして下さい。」(楽)が一般的な歓迎のパターンである。韓流ドラマは、子供時代に虐待され、大変苦勞した若者が復讐するストーリー(怒)が多い。哲学思考が得意なインド人は、仏教が説く四苦(生、老、病、死)に考えを廻らし、額に皺を刻み、悲しみ(哀)を知っている様だ。

この観察と分析が論理的に正しいかどうかは問題ではない。彼が、世界各国を旅行し、民衆の喜びや悲しみの根源を理解しようと努め、更に外国での見聞を通して日本と日本人を見つめ直そうとしていることに敬服した。楽しい一時でした。



## 会館行事と人の動き 6/1～30

### ● 会館行事

- 5/31～6/23 ▶ 主催展「小説(ものがたり)・戯曲(しばい)を描くー中国木版年画展」
- 6/ 6 ▶ 後楽会気功・中国画教室
- 6/ 7 ▶ 山東省 濰坊鳳山梨巡回展開幕(～7/21、山梨県身延町なかとみ現代工芸美術館)
- 6/11 ▶ 第7回理事会
- 6/12 ▶ 後楽会談話会・交流夕食会「敦煌莫高窟壁画の保護」(講師:陳港泉)
- 6/15 ▶ 主催展関連協力イベント「年画コロキウム」
- 6/20 ▶ 新入寮生懇親会
  - ▶ 後楽会気功・中国画教室
- 6/25 ▶ 第4回評議員会

### ● 来館・訪問・面会

- 6/ 1 ▶ 日中友好協会との友好事業協議(武田理事長)
- 6/ 7 ▶ 昭和女子大学国際学科 川畑学科長 来館(武田理事長他)
  - ▶ 元後楽寮生 北京徳琦知識産権代理有限公司 王継文総経理来館(留学生事業部)
- 6/10 ▶ 藤沢市訪問・視察(鈴木恒夫 藤沢市長らと会見、武田理事長他)
  - ▶ 中国大使館との会食(劉智剛副会長、王中国代表理事)
- 6/11 ▶ 元後楽寮生 國務院発展研究中心市場経済研究所 任興洲所長 来館
- 6/13 ▶ 千曲市日中友好協会来訪 後楽寮見学(留学生事業部)
  - ▶ 元後楽寮生 武漢理工大学華夏学院 周中華氏 来館(留学生事業部)
- 6/14 ▶ 元後楽寮生 京雅達翻訳公司 李忠金総経理 来館
- 6/18 ▶ 中国南方電網 曹重副総経理、三菱商事 稲田和男環境ソリューション事業部長 来館(武田理事長)
- 6/28 ▶ 中国大使館訪問 打合せ(武田理事長、王中国代表理事)

### ● 行事参加、その他の活動

- 6/ 9 ▶ 瓊花茶会(後楽寮生)
- 6/17 ▶ 陝西書画名家展出席(武田理事長)
- 6/21 ▶ 留団協定例会(留学生事業部)
  - ▶ 留学生友の会主催バス旅行(後楽寮生) □
- 6/22 ▶ 横浜上海友好都市提携40周年記念講演会「関口知宏が旅した中国」(武田理事長)
- 6/25 ▶ 人民中国60周年式典(武田理事長、王中国代表理事)